

施 策 の 評 価

施策の柱

柱⑥

体力づくり～体力・運動能力の向上～

1. 個別事業の目標達成状況

個別事業No・名称	担当課	目標達成度	検討項目
36 子どもの体力向上支援事業	スポーツ健康教育課	B	
37 トップアスリート夢先生派遣事業費	スポーツ健康教育課	B	イ
38 健やかな体を育む小学校体育推進事業費	スポーツ健康教育課	B	
39 地域スポーツ人材の活用実践支援事業	スポーツ健康教育課	C	ウ,エ,オ

2. 施策の評価

総合評価	施策の主な目標	目標達成度	判断理由
B	① 魅力ある体育学習・体育的活動を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 体力・運動能力、運動習慣等調査結果を基に、高知県の児童生徒の体力低下要因について検討する子どもの体力向上支援委員会を設置し、外部委員により、様々な立場からの問題提起を受けることで、施策の評価や今後の方向性について検証することができた。(事業36) ◆ 小学校の体育授業にとって、新しい指導要領の趣旨及び具体的な単元例等の授業づくりの参考となる資料が配布されたことで、授業づくりに積極的に活用されることが推測できる。ただし、年度末に配布したため、全小学校に周知できなかった。(事業38) ◆ 体育・保健体育の授業において、専門性の高い領域に、地域の専門性を兼ね備えた指導者を授業補助者として派遣し、担任とのチーム・ティーチングで授業を行うことで、児童生徒の運動技能の向上を図ることができた。(事業39)
	② 運動習慣を定着させるために、児童生徒の意識を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 体力・運動能力、運動習慣等調査結果を分析することで、高知県の児童生徒の運動習慣の課題が明確になり、課題解決に向けた取組の方向性を明確にすることができた。今後は、その方向性を具体的な施策として実施することが必要である。(事業36) ◆ トップアスリートと一緒に体を動かしたり、スポーツ人生について話を聴く「夢の教室」を通して、参加した児童はスポーツの素晴らしさや努力することの大切さを学び、また、何かにチャレンジしようとする気持ちを持つことができた。今後は、その思いを運動習慣に結び付けるための手立てを具体化することが必要となる。(事業37)

3. 今後の方向性

- ◆ 体力向上に向けては、まずは、子どもたちを運動好きにさせることが重要である。そのために、小学校における体育授業の充実が必要なこととなる。しかしながら、体育授業の質については、指導者の力量に左右されることが大きく、学校全体での系統性を持った計画が大切である。そのために、平成22年度は、次のような取組が必要である。
 - ・体力向上に向けた校内指導体制の確立
 - ・体力向上を推進する学校におけるリーダーの育成
 - ・体育教育団体と連携した指導資料の活用方法の検討
- ◆ 児童生徒に運動習慣を身に付けさせるためには、校種に応じた取組が必要となる。また、学校・家庭が連携し、児童生徒の運動環境を整えることが必要となるため、関係団体との連携を拡大するための手立てが必要と考える。
- ◆ 体力向上に向けた取組を推進するためには、学校におけるPDCAサイクルを確立することが必要不可欠となる。そのためには、まずは、児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣についての実態を把握することが重要であり、すべての校種、すべての学校で調査を行うための手立てを検討する必要がある。